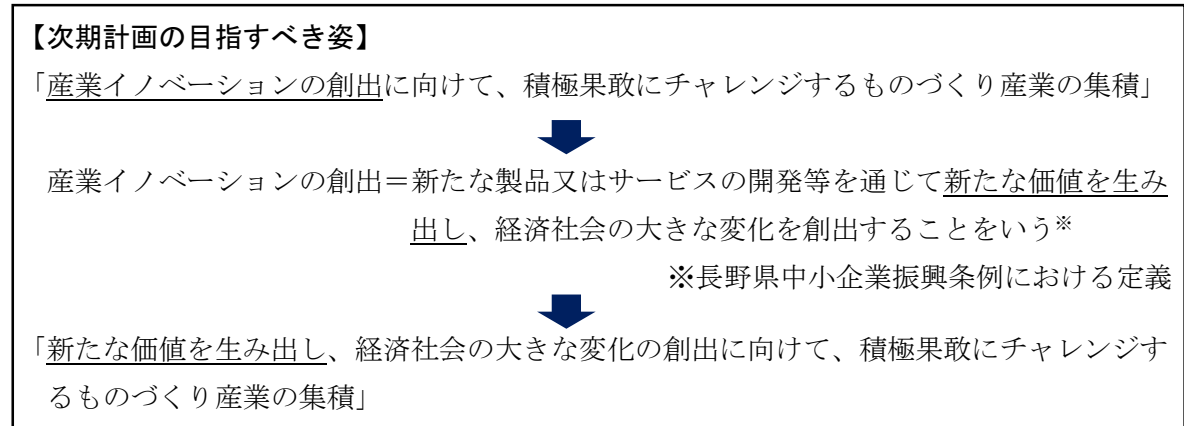


総括的な目標値の設定（案）について

1 総括的な目標値の考え方

①総括的な目標値は、次期計画の目指すべき姿を実現した状態を示すものである。



②①から、目指すべき姿を実現した状態を「新たに生み出した価値」によって評価することが適当であると考えられる。

③「価値」を定量的に表すものとしては、工業統計調査（平成 27 年は経済センサス-活動調査結果（製造業））に基づく製造業の「付加価値額」や付加価値額を従業者数で除した「一人当たりの付加価値額」があるが、次期計画では、「減少傾向にある従業者への対応（＝生産性の向上）」といった観点を含めて評価できる」などの理由から、「一人当たりの付加価値額」を**総括的な目標値の指標として選定**する。

2 目標値の設定

現状値（平成 27 年（2015 年））：一人当たりの付加価値額 1,117 万円（全国順位 29 位）

・県内において、新たな事業活動に積極的にチャレンジしようとする企業が目標として掲げる経営指標※を踏まえて設定する。

※中小企業等経営強化法に基づく経営革新計画の申請企業（平成 26 年（2014 年）1 月以降の製造業関係の申請企業 87 社分）が目標として掲げる計画期間（5 年間）中の「一人当たりの付加価値額」の伸び率 3.4%/年（87 社の平均値）を使って算出。

目標値（2022 年）：一人当たりの付加価値額 1,350 万円※

※現状値（平成 27 年（2015 年））と比較して 233 万円（20.9%）、当県の過去最高額である平成 23 年（2011 年）の 1,198 万円と比較して 152 万円（12.7%） 上回っている。